

令和6年度第2回 習志野市地域ケア推進会議

【開催日時・場所】

令和7年2月4日（火） 14:00～16:00

習志野市庁舎3階会議室

【出席者】

（委員）50音順

内海委員、大川委員、近藤委員、齊藤委員、沢田委員、杉山委員、立石委員、廣瀬委員、藤平委員、山下委員

（市）

奥井健康福祉部次長、相原健康福祉部主幹、岡澤健康福祉部主幹、
上本高齢者支援課包括推進係係長、中村同課主査、宮田同課主査補、中光同課主任主事

（高齢者相談センター）

谷津高齢者相談センター 小川センター長、笠井氏、笹原氏

秋津高齢者相談センター 橋本氏

津田沼・鷺沼高齢者相談センター 佐藤センター長、川村氏

屋敷高齢者相談センター 大多和センター長、高島氏

東習志野高齢者相談センター 脇本センター長、五島氏

【傍聴人数】

0人

【次第】

会議開会前

1 配布資料の確認

開会

1 会議録署名委員の指名

2 議事

「街にベンチを設置する」取り組みについて

（1）令和6年度第1回地域ケア推進会議の振り返り

（2）ベンチ設置に係る法の確認

（3）生活支援コーディネーターによる追加調査等

（4）意見交換

3 その他（連絡事項）

閉会

【資料】

・資料1 令和6年度第1回地域ケア推進会議の振り返りから

・資料2 「ベンチ及び上屋の道路占用の取扱いについて」国土交通省

・資料3	生活支援コーディネーターによる追加調査等
	【1 開会】 <山下会長> 本日は委員11名中10名が出席され、習志野市地域ケア推進会議設置要領、第三条第1項第10号による委員以外の関係者として、谷津高齢者相談センターより小川センター長、笠井氏及び笹原氏（第2層生活支援コーディネーター）、秋津高齢者相談センターより橋本氏（第2層生活支援コーディネーター）、津田沼・鷺沼高齢者相談センターより佐藤センター長、川村氏（第2層生活支援コーディネーター）、屋敷高齢者相談センターより大多和センター長、高島氏（第2層生活支援コーディネーター）、東習志野高齢者相談センターより脇本センター長、五島氏（第2層生活支援コーディネーター）が出席。傍聴者は0名。 【2 会議録署名委員の指名】 会議録署名委員として、内海委員と大川委員を指名。 【3 議事】 「街にベンチを設置する」取り組みについて (1) 令和6年度第1回地域ケア推進会議の振り返り 資料1について事務局より説明 (2) ベンチ設置に係る法の確認 資料2について事務局より説明 (3) 生活支援コーディネーターによる追加調査等 資料3について各高齢者相談センター及び第1層生活支援コーディネーターより説明。 <谷津高齢者相談センター 小川> 今年度は「見守り」をテーマとした地域ケア会議を開催したので、移動支援やベンチについて話し合う機会は取れませんでした。アンケートを取り、「移動」という項目を入れたところ、2人がチェックをしました。 <山下会長> 見守りをテーマとした会議ではどのような話し合いをされたのですか。 <谷津高齢者相談センター 小川> 見守り事業者の方々に集まっていたいただき、それぞれ行っている見守り活動について共有し、地縁のない高齢者をどのように見守っていくか意見交換をしました。 <山下会長> 特徴的な意見はありましたか。また、会議の構成メンバーはどのような人ですか。

<谷津高齢者相談センター 小川>

見守り事業者が、どのように見守り活動をしているのか地域住民も知らない事があったこと、見守り対象者が見守り事業者にケアマネジャーの情報を伝えられる仕組みがあると、異変があったときにケアマネジャーに伝えられるのではないかという意見がありました。

会議の構成メンバーは、民生委員、高齢者相談員、ケアマネジャー、介護事業所、病院のソーシャルワーカー、町会関係者です。

<津田沼・鷺沼高齢者相談センター 川村>

圏域で活動している住民主体の集いや、移動スーパーの日時及び停車場所をマップ化しており、運用しています。

今後、公共トイレの場所、購入した商品を配達してくれる店舗、季節の草花マップなどの作成も検討していきたいです。

<秋津高齢者相談センター 橋本>

協議体の意見を踏まえて、地域で集える場所のマップの作成を検討しています。

また、社会資源一覧表の更新に合わせて、宅配、弁当、灯油販売など衣食住に合わせたマップの作成も検討しています。

<谷津高齢者相談センター 笠井、笹原>

圏域のベンチの特徴などに関するクイズを入れたベンチマップを作成しています。クイズに正解した高齢者には、外出のきっかけになればと考え、「認定証」を配布することも検討しています。

認定証の発行のためセンターへ来所した高齢者へ、必要に応じてセンターで行っているつどいや、地域で行われているてんとうむし体操などの地域資源を案内する予定です。

協議体においても、ベンチマップについてお知らせし、情報提供をお願いしているところです。

<杉山委員>

「子ども110番の家」のように、高齢者が休める「お休みどころ」の設置を公共施設、民間施設、商店などを募ってみたらいかかかと思いました。

暑い夏場などエアコンの効く空き店舗を休憩場所として開放しているニュースを見たことがあり、協力頂けるのではと思います。

マップ化にあたっては、タクシー乗り場やバス乗り場など、移動手段を掲載すると良いと思います。

また、高齢者がマリオカートなどのeスポーツを楽しんでいると聞くので、遊びながら取り組める場所を掲載するのも良いと思います。

<山下会長>

質問等がありますか。

<大川委員>

担当している利用者にベンチの情報を提供すると、反応が良かったです。今まで色々な場所にベンチがあることに、気づかなかった高齢者もいました。

高齢者が、休めるところを探しやすいマップ作りができると良いと思います。

<山下会長>

続いて、ベンチが設置されると良いと思われる場所の調査結果について、代表で谷津高齢者相談センターから説明をお願いします。

<谷津高齢者相談センター 小川、笠井>

谷津圏域を国道14号を境に北側と南側に分け、高齢者が多い集合住宅を出発地点として考えました。

A 地点（アカシアハイツ）から津田沼中央総合病院までの間には、4か所ほどベンチがありました。病院の前は道が狭く、車道と歩道が分かれていないため、危ない印象で、ベンチを置けるスペースは確認できませんでした。

A 地点の津田沼駅側ですが、ロハルというスーパーマーケットの辺りや、南郵便局と歯科医院の間、コンビニエンスストア、銀行の前にベンチがあるといいと思います。

公園にはベンチがあるのですが、子育て世代が多い地域なので、もう少しベンチを増やしてもよいのではないかと思います。

そして、社会活動の場所である谷津コミュニティセンターまでの道のりでは、比較的等間隔にベンチがありました。

B 地点（遊園ハイツ）から谷津保健病院に行く道には、全くベンチがありません。商店街には等間隔に8か所ベンチがあります。病院の周辺には3か所ベンチがあり、高齢者が休憩しているところを見かけます。商店街を抜けた後、ヨークマートまではベンチがありません。

谷津保健病院近くの特別養護老人ホーム「サンクレール」の前の十字路にベンチを設置出来れば、信号待ちの間に座ることができるのではと思いますが、実際に設置することは難しいと感じます。

谷津郵便局までの道では、商店街を抜けてから全くベンチがなく、交通量の多い道を渡らなければいけません。車道と歩道は分かれています、歩行者側にベンチを設置するスペースはあまりないような印象でした。

ベビーカーやシルバーカーの利用者も多く、ベンチを設置したら移動が難しくなるケースも出てくるのではないかと感じる場所もありました。

<山下会長>

続いて、ベンチの設置以外の支援について、生活支援コーディネーターのアイデアの発表をお願いします。

<屋敷高齢者相談センター 高島>

コロナ禍前は、コンビニエンスストアのイートインスペースで高齢者が食事をする姿が見受けら

れたので、防犯上難しいかもしれませんがコンビニエンスストアなどに協力してもらうのが良いと思います。

<杉山委員>

寄りかかることができるスロープやガードパイプの設置、シルバーステッキカーや杖の貸し出しが可能なステーションの創設などができると良いと思います。

また、ショッピングセンターの買い物カートで、買い物帰りにカートを押しながら自宅まで帰るシステムがあっても良いと思います。

<山下会長>

質問やご意見はありますか。

<沢田委員>

杉山委員から最初に紹介のあった高齢者お休みどころの発想が良いと思います。

そして、マップ作りは非常に良い取り組みで、ベンチだけでなく、他の情報を合わせたマップが良いと思いました。

また、私の勤務している施設の一角に高齢者のお休みどころを作れたらいいと思いました。施設の PR も含めて、お休みどころの創設に賛同してくれる施設が増えるのではないかと思います。

高齢者の安全を確保するという意味で、お休みどころでベンチがあったり、トイレを貸すなどの取り組みがあっても良いと思います。

<齊藤委員>

必要としている高齢者が座れるよう、病院や高齢者施設の前など、高齢者が優先して座れるエリアに重点を置いて設置できるのかを探していくと、ベンチが増えていくのではないかと思います。

<廣瀬委員>

ベンチ設置場所のマップは、目的地への行き方を説明するのに理解が得られやすくなります。

また、職員の異動があった場合など、マップがあれば支援に活用しやすいと思います。

<内海委員>

国土交通省のガイドラインは平成6年に発出された文書になりますが、その後改正はなかったのでしょうか。

通達を読むと、道路管理上必要なものは道路管理者自らが設けることとなっています。

ベンチを設置するにあたっては、道路管理者である習志野市が主導することになりますか。

<岡澤主幹>

国の通達については新しいものもありますが、主なところは変更が無いので、今回は見やすい資料として平成6年のものを配布しています。

ベンチの設置については、公園のベンチであれば公園緑地課、道路上であれば道路課が担当部署になります。

現時点では、具体的なベンチの設置までは手が届かないので、委員の皆様には地域の中でやれるところはどこかを協議いただいているところです。

<杉山委員>

大川委員の発言のように、実際に配布を考えている高齢者から意見を貰うのは大事だと思います。

<立石委員>

マップに写真があるのは見やすいし、目安になると感じました。

AED の場所など、高齢者が安心して出かけられるような情報を載せるとよいのではないのでしょうか。

<藤平委員>

施設や店舗など、設置が可能ではないかと考える場所がありますが、各圏域によって道路の状況は異なっていると思うので、ベンチの設置は非常に難しい問題だと思います。

津田沼・鷺沼高齢者相談センターの集いの場所を含めた形でのマップは非常に良いと思いました。

谷津高齢者相談センターの発言にありました、見守りについてですが、私が所属している事業所で配食事業をしており、申し込みの段階で、ケアマネジャーや緊急連絡先の情報を記入してもらっています。配食は手渡しで、何か異変があればケアマネジャーに連絡を入れるという事業者が多いと思います。

<大川委員>

マップ化の際に、無料で休めるところなどの記載があるといいと思います。

<近藤委員>

2026 年でガラケーと呼ばれる通信規格の携帯が使えなくなり、高齢者でスマートフォンを持つ人が増えると思います。その時に、例えば、グーグルマップの中にベンチを登録することができ、検索できると便利なのかなと思いました。

また、ベンチを設置するのであれば、次のベンチまでの表示があった方が、移動のモチベーションになるかもしれません。

市の予算でベンチを設置できない場合は、QR コードなどを用いて広告を掲載し、広告費として収入があれば設置の可能性はあるかもしれません。

シルバーカーについては、高齢者が手にしてみるきっかけの場所がないように感じますので、高齢者が大勢来るスーパーマーケットなどに移動補助具を設置してもらうのはどうでしょうか。

また、1 か月間無料で貸与し、その後購入の検討をするといった手法があると良いと思います。

<山下会長>

ベンチの取り組みや、移動支援については地域の協力が必要です。そこで、多世代交流の機会を狙った住民参加の取り組みについて、発言をお願いします。

<東習志野高齢者相談センター 五島>

地域のこども会と共催し、高齢者について知ってもらうことを目的に、高齢者疑似体験のイベントを行っています。また、地域の高齢者との折り紙教室などをこども会運営者に提案をしたところ、好感触でした。

東習志野高齢者相談センターの運営法人でこども食堂を開催しており、地域の高齢者と昔遊びや工作を一緒に実施しました。こども食堂での取り組みは、コロナ禍で中断をしている期間がありましたが、今年度は開催ができており、多世代交流が狙えると思っています。

<秋津高齢者相談センター 橋本>

地域の祭りや運動会、公民館などでのイベントに、小学生のこども達が多く参加していると知ったので、交流の機会になると思いました。

また、学校の授業を活用し、高齢者と昔遊び、けん玉、編み物、ダンスなどのイベントをする機会があれば良いと思いました。一緒に可愛いものを作ったり、トンネルの壁画などを作成するのも良いかもしれません。

こども達のなりたい職業の上位にパティシエが入っており、和菓子屋やパン屋とコラボレーションし、市のイメージキャラクター「ナラシド」の和菓子やパンと一緒に作ったりし、活性化を図るのも良いと思います。

<杉山委員>

シルバーステッキカーや杖など高齢者に勧めたときに、私は持ちたくない、使いたくないという意見があります。そこで、自分で利用するシルバーステッキカーや杖などを、自己流に装飾すると愛着が持て、外出の意欲が高まるかもしれません。

また、「インクルーシブデザイン」と言った、色々な方に優しい衣類を自分で選ぶことや、作る講座を行うことで、多世代に渡る皆が楽しめると思います。

<山下会長>

本日は、「街にベンチを設置する」取り組みについて、設置は簡単ではなく、様々なルールなどもありますが、高齢者の活動範囲で休憩できる場所が必要だという認識を共有できました。

各高齢者相談センターには、ベンチや休憩の場が必要となる一歩手前で、「歩き続ける」ということの基盤や環境を、どのようにサポートしていくのか考えてもらいました。

近藤委員が提起したグーグルマップの活用について、これからはそれを活用しながらルートを意識して歩く人たちが増えるのではないのでしょうか。この、「ルートを意識していく」ことが、今後大切になってくると思います。

「歩くことを続ける」ということをテーマにすると、いつぐらいから杖を使用するのかなどのエピソードがあると思います。ベンチの設置を引き続き議論するのであれば、ベンチが必要な人の意

見を聞いて、各圏域で検討できれば良いのではないのでしょうか。

最近では、身寄りのない高齢者の急増問題が全国的に課題となっています。

医療費の支払いや福祉サービスの手続きなど、手続きを支援するという資源が必要になってくるでしょう。

また、介護保険サービス以外に、人間関係の繋がりを作ることが出来る資源を創設していくことも今後注目されてくると思います。

中には、繋がりが必要ないと言う人もいますが、「人生の最後はどうなりたいか」を考えていく必要があるというメッセージも重要ではないのでしょうか。

【3 その他(連絡事項)】

事務局より連絡事項。

来年度の開催日時等については、決定次第、委員の皆様にお知らせする。